

えすぽわーる

12

2015
No.160

えすぽわーる新函館はJA新はこだてとみなさんをつなぐコミュニケーション誌です

— SHINHAKODATE —



JA新はこだて

<http://www.ja-shinhakodate.jp/>



ほっこり、ほくほく。

心も体も温める師走の定番野菜

農す ― 生きる力を体現した容姿、自然本来の鮮やかな彩り、四季折々で地域の景観であり続ける「農産物」と、それを生み出す「農業者」たちをシリーズで紹介していく。

【農産物】南瓜

厚沢部町新栄

佐藤 龍也さん(39)

美佳さん(38)



「甘い品種が普及してきているので、スイーツのような食べ方も増えてほしい」と龍也さん。奥さんの美佳さんと並んで。

冬至のお汁粉をはじめ、日本の食文化にすっかりなじんでいる南瓜。

だが、日本に来たのは16世紀頃という説が有力で、意外と新しい。持ち込んだのはポルトガル人で、彼らの言葉で「カンボジア」を表す語が名前の由来とされる。漢字の「南瓜」は中国から来たもの。中国でも同じ名前だが、麦瓜・金冬瓜などの方言があり、「北瓜」と呼ぶ地域もある。畑作地帯の厚沢部では昔から南瓜が作られてきた。厚沢部の南瓜は、

長年積み重ねてきた信頼からか、本州からも引き合いが強い。今回取材した佐藤龍也さんも、お爺さんの代から三代続く南瓜農家だ。

育てているのは、昔からおなじみの品種「えびす南瓜」と新進気鋭の「ほっこりうらら」。「ほっこりうらら」は反収がよく、ほくほくとした粉質系で甘さもなかなかという。

作業は、5月中旬に行われた播種からスタート。今年は春先の気温が高く、作業は早めに進んだ。25日には定植を行い、その後、順調に生育し、開花・結実を経て、8月末には無事に収穫を迎えた。

一番難しい作業は防除、と佐藤さん。「病気がついてからでは遅いし天候にも左右されるので、タイミングを見極めなければならぬ」と語る。それでも「親が一番の先生。経験を聞きながらやっている。近所や町内の先輩農家たちも熱心に指導してくれる」と、信頼を見せる。「厚沢部は若手や新人農家の教育を大事にしている町」とも。



①家族総出で定植作業をする。ご両親も現役だ。 ②南瓜の花は、瓜の仲間ならではの鮮やかな黄色い花だ。 ③倉庫の中で出荷を待つ南瓜たち。寝かせることで甘みが増しておいしくなる。 ④食べごろになった南瓜は、人の手で丁寧に選別されて各地に届けられる。

えすぽわーる

NO.160 / 2015年12月号

CONTENTS

- ② 道南を農す
- ④ **特集** えすぽわーるで
振りかえる2015年
- ⑥ トピックス
道南から15年ぶりに出場
第14回全日本ホルスタイン共進会 他
- ⑧ Focus the JOB
～JAの仕事をご紹介します～
- ⑨ あぐりレッスン
- ⑩ 農業が求める女性の力
- ⑫ JA共済スマイルサポーター
ロールプレイングコンテスト
- ⑬ 第1回JA新はこだて
窓口セールスコンクール
- ⑭ 地産地食図鑑



厚沢部市街から北斗市へ向かう国道227号線沿いに立っていて、中央に描かれた「ふっくりんこ蔵部」のロゴが目を引きま。畑作地帯の厚沢部ですが、稲作も盛ん。当JAの米生産高の15%近くを占めています。



一方、地域の方も佐藤さんに期待を寄せる。若くして農業委員を務め、今年から南瓜部会長にも就任した。「毎年が勉強」と謙虚な佐藤さんだが、「先輩たちの思いを継いで、伝統を守りながら次の世代につなげていきたい」と熱い抱負も語ってくれた。

3月 March



青年部ポリシーブック 全国優良事例選出

青年部のポリシーブック(政策・方針集)が、2年連続で全国優良事例に選ばれました。高橋部長は「第2回ポリシーブック全国大会」で、活用方法について講演しました。



あぐりへい屋「冬の鍋まつり」

メイクインの「いも団子汁」や知内特産の「カキニラ鍋」など、地元の食材を使った鍋が週替わりで登場。熱々の鍋を求めて行列ができました。



4月 April



新採用職員が入組

4月1日、11名のフレッシュな新卒新採用職員が入組し、各部署に配属されました。それに先立ち入組前研修や農家実習が行われ、JA職員としての意識を高めていました。



第13回通常総代会 開催



4月14日、北斗市のかなでーるで第13回通常総代会が開催されました。総代432名による議決で、全8議案と2特別決議が原案通り可決されました。議事では平成26年度の販売額が6年連続で270億円を突破したことなどが報告されました。

新執行体制がスタート

15日に開かれた理事会・監事会で新執行体制が決まりました。畠山良一組合長が再任され、新常勤役員に輪島桂専務と西村安弘常務、川端英裕常勤監事が就任。また、(有)新はこだて協同には的野敏夫社長が就任しました。

特集

えすぽわーるで 振りかえる2015年

2015年も終わりを迎えようとしています。今年は春先の天候が安定するなど、作物の生育が概ね好調に推移してきました。お米も、品質の高い物がとれています。そんな2015年、JAや組合員の皆さんの動きを「えすぽわーる」で振り返ります。

1月 January



新春特別懇談会

畠山良一組合長、高橋陽一青年部長、田原和子女性部長が懇談しました。若手農業者やフレッシュミズの参画・花嫁探しをはじめとする後継者対策など、将来に向けたテーマについて和やかに話し合われました。



2月 February

ふっくりんこ特A受賞



平成26年産米の食味ランキングが発表され、ふっくりんこが見事、最高ランクの「特A」を獲得しました。「ふっくりんこ蔵部」ははじめ生産者の悲願が叶った、初めての快挙です。これを追い風に、今年は名古屋・関東方面での販売推進、玄米茶の発売など、積極的な販売PRに力を入れて取り組みました。

青年部協議会道外視察研修

JA道南地区青年部協議会による視察に、当JA青年部からは高橋部長と冨樫孝参与が参加しました。JA全国青年部大会に出席したほか、JA全中との意見交換、前田一男代議士への表敬訪問を行いました。



7月~8月 July/August

夏祭りが各地で開催



7月21日、知内で「第20回JA夏まつり」が開催。太鼓の演奏やにらちゃんの踊りなどで盛り上がりました。8月8・9日にはあぐりへい屋で「3周年記念感謝夏祭り」が開かれ、格安な農産物や限定グルメを求めて大勢の方が訪れました。13日には若松支店で「第20回北の白虎まつり」が開催。青年部がその場で焼き上げるピザが大好評でした。

9月 September

お米の収穫がスタート

今年も9月にお米の収穫が始まりました。品質は、「外観が良く粒ぞろいもしっかりしている」と三浦米穀課長も太鼓判を押す出来です。ライスターミナル裏に新倉庫も完成し、フル稼働しています。



10月 October

収穫祭が大盛況

厚沢部で「第4回農協まつり大収穫祭」が開催。メイクインの塩煮や農協大なべが無料で振る舞われ、人気を集めました。17・18日には「大野支店収穫感謝祭」で、オリジナル料理に長い列ができました。



5月 May

産直市がスタート

組合員組織で運営する産直市は、木古内のきこりろ・函館の湯川朝市・森の濁川温泉市・長万部土曜市の4ヶ所。いずれもオープン前から行列ができ、新鮮な農産物を求める買い物客で賑わいました。



田植え体験が各地で開催

小学生や親子を対象に、田植え体験が各地で開催されました。子供たちは裸足になって水田に入り、真剣に苗を植えていました。また、北斗市民有志と函館大妻高生は初めての田んぼアートに挑戦しました。



6月 June

組合長がトップセールス

畠山組合長と新谷正人生産販売部長は、道外の市場12ヶ所に販売要請に出向きました。市場の経営者と面談し、要望を直接伝えました。スーパーマーケット三徳では「JA新はこだて専用棚」を視察しました。



7月 July

「はこだて和牛」が全国表彰

「あか毛和牛認定農場枝肉共励会」で、最高賞にあたる「特別奨励牛」に、木古内町の東出雅史さんのあか牛が選ばれました。出品されたのは24月齢の牡牛で、脂肪のバランスや肉量が高く評価されました。



1年間、「えすぽわーる」をご愛顧いただき、ありがとうございます。

2016年もますます精進しますので、引き続きよろしくお願ひします。

道南から15年ぶりに出場 第14回全日本ホルスタイン共進会



審査終了後に搾乳する笠原さん



駆けつけた生産者仲間と一牧

10月23日から26日の4日間、「第14回全日本ホルスタイン共進会」が、安平町の北海道ホルスタイン共進会場で開かれた。全日本共進会の開催は10年ぶりで、酪農王国・北海道では初めて。

乳牛改良の成果を広く展示することで、乳牛の資質向上をはじめ酪農の発展に貢献することが目的。

今大会は、42都道府県から374頭（ホルスタイン344頭・ジャージー30頭）が出場する、過去最大規模の大会となった。

当JA管内からは、長万部町の笠原正裕さんが出場した。出品牛は「ユーエムフラワーエフノミカルウツテイー」。

笠原さんは、全道共進会の第12部シニア3歳クラスで1等賞4席になり、今大会への出場を決めた。道南からの出場は15年ぶりの快挙。会場には生産者やJA役職員も駆けつけ、大会を盛り上げた。

全日本共進会では、優等賞に次ぐ「1等賞1席」を獲得した。

ラジオで道南の農業を熱烈PR HBC「北海道農業応援スペシャル」



▲豪快な餅つきを披露する青年部員ら

11月3日に放送された「HBCラジオ北海道農業応援スペシャル」で、北斗市のキュウリと八雲町落部地区のもち米が全道に紹介された。

大野支店の田山光幸営農センター長は、「新感鮮」をキャッチコピーにした新包装のキュウリを紹介。

落部では、青年部の小林幹至さん宅から中継。青年部員12名を含め、地域住民約40名が応援に集まった。新米の「風の子もち」のPRとして餅つきを披露し、いかめしや赤飯などを紹介した。

小林さんは「新米が美味しいのはうるち米だけではなくもち米でも同じこと。正月の前に新米の赤飯を食べてください」と話した。

記念の年をにぎやかに祝う 森地区青年部60周年記念式典



▲歴代の青年部長に表彰状を渡す甲田部長

森地区青年部は11月2日、ホテルグリーンピア大沼で「60周年記念式典」を開いた。現役青年部員のほか、OB、組合員、JA役職員、町関係者など50名ほどの来賓が出席し、節目の年を祝った。

はじめに現青年部長の甲田祐康さんがあいさつ。続いて、歴代の青年部長・JA事務局職員に感謝の意を表して表彰状が手渡された。さらに、森町の梶谷恵造町長、畠山良一組合長らが祝辞を述べた。

甲田さんは式典にあたり「歴代役員やJA、関係機関に皆さまに心から感謝申し上げます。先輩たちの思いを受け継ぎ、地域との繋がりを大切にし、未来に向けて挑戦していきたいです」と抱負を表した。

最新の技術や取り組みを学ばせたな町農業塾で先進地視察研修



福屋牧場で設備について説明を受ける

せたな町農業塾は11月9・10日、先進地視察研修を開催し、若松地区の農家4名が参加した。

9日は札幌の北海道農業研究センターで、業務用の「雪ごぜん」や極良食味の「ゆきさやか」などの水稲、野菜の新品種を紹介された。また、大豆や秋まき小麦を組み込んだ水田輪作体系、乾田直播の説明を受けた。10日は恵庭の福屋牧場を訪れ、共進会、フリーストール、乾乳の牛舎での給餌体系、独自の堆肥づくりといった取り組みが紹介された。

参加した金谷憲和さんは「用途に合わせた水稲品種があるのは勉強になりました。屋外での視察もあればもっとよかったです」と話した。

若手農業者同士で絆を深める JAふらの青年部と組織間交流



野菜残渣を堆肥化する有機物供給センターを視察する部員ら

11月6～7日、高橋陽一部長以下、青年部の代表者6名は、JAふらのを訪れて同青年部と交流した。広域合併JA同士で共通の課題も多く、情報共有や意見交換が狙いで、毎年交流している。

現地では、玉ねぎ選果施設、VC（真空予冷）センター、農産直売所「オガール」などの施設を視察。意見交換会では、婚活事業や部員同士の交流について議論された。部員らは、ふらのでの「専属結婚相談員の配置」などの対策に、真剣に耳を傾けていた。

交流を終えて高橋部長は「今後も交流を深めて、婚活をはじめ青年部事業の発展に繋げたい。さらに、仲間づくりの場としても大切にしたい」と話した。

7玉に5万円の過去最高値 「ななみつき」の初競りで



競り開始の後、数秒で値段が決まった。

11月6日、デビュー4年目を迎えた七飯町のブランドリンゴ「ななみつき」が函館青果物地方卸売市場に初出荷された。7玉に5万円の高値が付き、昨年と並ぶ過去最高値となった。

競りに立ち会った同町果樹組合ななみつき部会の宮田宏之部会長は「今年から光センサーを導入して、蜜入りの精度を上げている。今後も高品質な商品を消費者に届けられるように努めたい」と話した。

また、11月7日～10日の4日間、七飯支店は「七飯町うまいものフェア in 丸井今井函館店」（ななえ町物産振興協議会主催）に出店し、「ななみつき」などを販売。来場客から食味に好評を博していた。

函館市民に地元のお米・農産物を 知内青年部と職員がPR



ふっくりんこと野菜詰め合わせを手渡す青年部員

11月1日、函館市のコープさっぽろ人見店・湯の川店で、知内地区の青年部員が店頭でふっくりんこのPRを行った。

参加したのは、青年部員5名と知内支店職員2名。試食用のご飯を手に「おいしさには自信があるので、一度食べてみて下さい」と買い物客に声を掛けた。購入した方には野菜詰め合せがプレゼントされたが、用意した100袋がすべてなくなる人気だった。

また、この日は函館競馬場でお米や野菜などの即売も行われ、米穀課とあぐりへい屋の職員が売り場に立った。豊富な品揃えや特別価格に魅かれて買い物客は引きも切らず、ブースは賑わった。

今回は若松支店営農センター。



畜産課
課長 中島 賢哉

営農生産課
撫養 ひとみ

畜産課
主査 田中 雅弘

畜産課
係長 亀尾 孝幸

営農生産課
課長 今村 文春

営農センター長
伊藤 慶吾

営農生産課
三津橋 一江

営農生産課
係長 福留 直樹

生産資材課
課長 林 哲裕

生産資材課
駒谷 真由美

営農生産課
蓬田 英俊

営農生産課
鳥倉 健太

営農生産課
三輪 亮介

営農生産課
粕谷 直人

営農生産課
係長 近 孝弘

生産資材課
係長 西脇 正樹

生産資材課
柳谷 健太



市場担当者なども参加した現地研修会



営農生産課がある事務所

迅速・的確な対応を心掛けます

若松支店営農センターは、営農生産課・畜産課・生産資材課の3課から構成されています。当地区では馬鈴薯・花卉・ブロッコリーその他、水稲・肉牛・肉豚など様々な品目を取り扱っています。

営農生産課では、担い手確保の取り組みや各種補助事業に関する業務に加え、倉庫など施設の運営や管理業務、生産組織の運営事務や農産物の集荷・販売業務を行っています。また、農家巡回や生産指導に力を入れて取り組んでいます。畜産課では畜産物の販売業務に加え、高収益型の畜産体系の推進に生産者や関係機関と連携しながら取り組んでいます。生産資材課では、農業資材の各種取り纏めや配達業務などを行っています。その他、自動車販売に関する相談もしております。

これからも、組合員の相談事には迅速で的確に対応し、組合員に頼られる営農センター作りを心掛けていきます。

【連絡先】

久遠郡せたな町北檜山区若松 300 番地 1
TEL : 0137-85-1331 (営農生産課)
FAX : 0137-85-1300

TEL : 0137-85-1711 (資材課)
FAX : 0137-85-1079

子牛に温かい環境を ～施設・飼養環境は大丈夫？

これから迎える厳冬期は、体脂肪量が少なく被毛の短い子牛にとって“寒さ”のストレスを受けやすく、発育にとって不利な条件が加わります。

特に生後3週齢以下の子牛では下限臨界温度とされる15℃以下になると、体温維持のため余計にエネルギーを消費します。15℃以下の環境では、増体が停滞する等の生産性の低下が懸念されるため、子牛（育成牛を含む）の施設、飼養環境を再確認しましょう。

子牛管理の基本を実践！

（4つの〇〇ない）

子牛の体熱を奪う熱放散パターン

① 気化熱	水分が蒸発する時、体熱が奪われる
② 伝導熱	冷たい物に直接触れた時、熱が逃げていく
③ 放射熱	環境温度の差で、熱が移動していく
④ 対流熱	近くの温かい空気が、冷氣と入れ替わる

① 体を汚さない

- * 適度な換気（除湿）
- * 汚れた敷料はこまめに交換
- * 乾いた敷料を豊富に入れる



② 冷たい物に 触れさせない

- * コンクリート床、壁、金属柵に断熱材を設置（ゴムマット、発泡スチロール、コンパネ等）



施工後



③ 自分の熱を 逃がさない

- * 防寒着等の着用（ジャケット・ネックウォーマー）
- * 側面と天井の3方向を壁で囲む（シート、コンパネ等）



④ 体に冷風を 当てない

- * 外からの“すきま風”を防ぐ



図1 寒冷ストレス緩和に効果的な施設整備の事例



農業が求める女性の力

これからの農業は、農産物を作るだけでなく、消費者ニーズに合わせた安全・安心な食の提供、6次産業化、農村の活性化など幅広い視野や見聞を持ち、経営していく必要があります。

そこで求められるのが、生産者と消費者の両方の感覚を持ち合わせる女性の力。今、農業経営への女

性参画や女性の担い手農業者の力が大いに期待されています。

えすぼわーるでは、「農業が求める女性の力」と題して、シリーズで特集します。

第3弾は、JA新はこだての女性参画への取り組み状況を紹介します。

1. これまでの取り組み

- H26. 7 女性部と常勤役員と意見交換会（数値目標等）
- H26. 8 第8回理事会 「女性農業者のJA運営参画促進運動方針」の制定
- H27. 6 第2回企画管理信用共済委員会 女性役員加入促進について協議
- H27. 7 第5回基幹支店長会議 女性役員登用における手法等の協議
- H27. 8 女性部役員と常勤役員との意見交換会（取り進め等）
- H27.10～ JA広報誌10月号、11月号、12月号への関連記事の掲載

2. 今後の取り組み

- H28年度 JA女性部各支部との対話活動（H26～継続）（第1ステージ）
- H28. 4 組合員懇談会への提案・協議（予定）
- H28. 5～ 女性農業者の正組合員への加入促進運動（第2ステージ）
- H28. 6～ 役員定数等検討委員会の開催
- H28. 8～ 女性農業者の農協総代登用に関する協議（第3ステージ）
- H29. 3～ 女性農業者の農協総代への就任
- H29. 5～ 女性役員登用にかかる協議
- H30年度 役員の推薦（女性役員含む）
- H30. 4 総代会において役員選任（女性役員を含む）（第4ステージ）

●1. 女性農業者の正組合員への加入促進

女性参画運動の”第2ステージ”としてJA総代、農協役員へ女性農業者の登用を実践する上で、JAと女性部組織が連携し、正組合員への加入促進を図って参ります。

※正組合員における女性の割合は、25%を目標としています。

●2. 女性農業者のJA総代への就任

農協運営への女性参画の”第3ステージ”として、女性農業者のJA総代への就任を求めて参ります。なお、女性総代は、女性組織代表等に限定することなく、広く正組合員の中から適任者を選出します。女性総代については、原則、選挙区毎の定数配分（地区毎の割当）の内数として、数値目標を掲げて取り組んで参ります。

※総代における女性の割合は、10%を目標としています。

●3. 女性役員就任にかかる役員定数等検討委員会の開催

現在、農協役員は理事23名（学経2名）、監事5名（学経1名）計28名となっており、28名の役員のうち25名はそれぞれの区域から推薦されています。

今後、女性役員の登用で、役員定数における定数配分（区域枠・推薦枠）の検討が重要な課題となりますが、それらを役員定数等検討委員会で協議を行い、協議内容に基づく答申結果を踏まえ、理事会、総代会へと提案することになります。

また、役員推薦にあたっては、推薦方法の取り進めを担う役員推薦会議等で、新たに協議・検討することが必要になります。

※女性役員は、2名以上とすることを目標としています。

●4. 女性役員の就任

平成29年～30年の区域役員推薦会議、役員推薦会議等を経て女性役員2名を推薦することになり、平成30年4月開催の総代会での承認後、正式に役員に就任する予定であります。

女性農業者のJA運営参画促進運動は、当JAで昨年制定された「女性農業者のJA運営参画促進運動方針」に基づいて取り進めて参りますが、その基本的な考え方は、生産と生活両面を担う女性の声をJA運営に反映させることで、JAにおいても組織や事業に広く女性の視点を活かす検討と実践が求められます。

ステージ毎に目標が定められており、目標に向けて促進運動を展開して参りますが、結果的に目標が達成できない場合でも、期待される効果ならびに本運動の趣旨をご理解いただき継続的な促進運動を行って参ります。

◆女性農業者の役員選任までの流れ（目標）

ステージ	実施内容	時 期	目 標
第1ステージ	女性部との対話	継続	
第2ステージ	女性正組合員加入	H28～	正組合員全体の25%以上
第3ステージ	女性総代の就任	H29.5～	総代全体の10%以上
第4ステージ	女性役員の就任	H30.4～	2名以上

▶ 理事会開催報告

第11回 理事会(定例)

日時:平成27年11月30日(月) 午前10:30～ 場所:北斗市総合分庁舎

議案

1号 組合員懇談会への提案事項について
2号 職員への冬期手当の支給について

3号 金融機関への貸付について

「第28回JA北海道大会」盛大に開催

11月12日、「第28回JA北海道大会」が開かれた。全道から約2,300名が出席し、「北海道550万人とともに創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある農村』」の実現に向け英知を結集することを誓った。

大会では、農業所得の20%向上、新規担い手の倍増などの目標を決議。また、道民にJAのサポーターになってもらうことや組合員・役職員の人がづくりが掲げられた他、小野寺会長により説明された「TPPから北海道農業を守るための特別決議」を採択した。



当JAからも畠山組合長以下、役職員が参加

管内から3名が受賞! JA共済 交通安全ポスターコンクール



表彰状を受け取る高橋杏奈さん

「平成27年度 JA共済 全道小・中学生交通安全ポスターコンクール」の入選作が発表され、当JA管内からは3名の小学生がみごと金賞を獲得しました。受賞者の皆さんは10月26日に札幌で開かれた表彰式に出席し、表彰を受けました。

受賞作品



▲金賞 知事賞
小学2年生 及川 竜弥くん



▲金賞
小学4年生 藤谷 哲心くん

共済スマイルサポーター ロールプレイングコンテスト

10月26日、道南農業会館で「第6回JA新はこだて スマイルサポーターロールプレイングコンテスト」を開きました。地区予選を勝ち抜いた6名の職員が、共済推進の腕前を競いました。

コンテストでは、窓口でのお客様対応をロールプレイ形式で披露。出場者はそれぞれ工夫を凝らしながら、明るく親身になった接客を披露しました。みごと組合長賞に輝いたのは、森支店の上野谷望職員。笑顔を絶やさない態度や、積極的にお客様とコミュニケーションをとる話術が特に評価されました。

審査員として参加した畠山良一組合長は「今日の経験を普段の仕事にも活かしてほしい。皆さんに大いに期待しています」と激励しました。

組合長賞 上野谷 望 職員(森支店)
共済連賞 近藤 裕美 職員(上ノ国支店)



リーフレットを使いながらわかりやすい説明をする上野谷職員



健闘をたたえ合う出場者たち(前列)と集合写真

組合員の皆様へ～「組合員意向調査」のご協力をお願い

第5次地域農業振興計画の策定に当たり「組合員意向調査」を実施しますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

1. 目的

今後の農業振興に対する意向を把握することにより、課題や問題点を整理・分析し、地域農業振興計画を策定するための基礎資料とします。

2. 実施方法

- 1) 調査方法：全戸に共通の「調査票」を配布します。
- 2) 回答期限：平成28年1月29日（金）

※意向調査は地域農業振興計画策定の基礎となる重要な調査です。

「100%回収」を目指して職員が回収に当たりますので、ご協力をお願い申し上げます。



第1回JA新はこだて窓口セールスコンクール

11月19日、「第1回JA新はこだて窓口セールスコンクール 本選会」が開かれました。JAカード部門と年金部門の2部門に、地区予選を勝ち抜いた各5名の職員が出場し信用推進の腕前を競いました。

はじめに組合長から「JAとしては初めての開催なので、新鮮な気持ちで臨んでください」と激励の挨拶。コンクールでは、ロールプレイング形式でお客さま役の職員に商品を推進しました。出場者らはそれぞれ工夫を凝らしながら、笑顔でわかりやすい接客を披露していました。

最優秀賞には、JAカード部門で若山職員、年金部門で二木職員がそれぞれ選ばれました。この経験を日ごろの業務にも活かせるよう、出場者は気持ちを新たにしていました。

JAカード部門

最優秀賞 若山 さとみ 職員(八雲支店)
優秀賞 岡野 みどり 職員(上磯支店)

年金部門

最優秀賞 二木 汐理 職員(大野支店)
優秀賞 田中 千里 職員(八雲支店)



笑顔で接客する上磯支店の岡野職員



大会を終えて安堵の出場者たちと集合写真

冬の貯金キャンペーン

キャンペーン期間

11月2日月 ▶ 平成28年 1月29日金



対象

定期貯金新規
お預入れ及び
増額書替(ともに10万円以上)の
お客様

1年 定期 年 0.15%

3年 定期 年 0.25%

5年 定期 年 0.30%

ご契約のお客様にすてきなプレゼント

キャンペーンで契約のお客様に

先着全店合計
1,100個限り

ちよリス
ランチボックス・箸 セット

さらに

100万円
以上の
貯金で



今回は 厚沢部基幹支店から 1袋
厚沢部光黒大豆菓子



広げよう!
地産地食
図鑑

★21品目★
メークインの里

メークインを練り込んだ
人気のお菓子

メークインと白あんを練り合わせた「メークインの里」(108円)



厚沢部産のメークイン



「厚沢部のおみやげに、ぜひどうぞ」と
倉谷店主

今月はメークイン発祥の地、厚沢部町ならではの
お菓子を紹介します。「くらや製菓」の倉
谷守男店主にご協力いただき、和菓子「メーク
インの里」を取材しました。
中の「あん」にはメークインをたっぷり使用。
白あんと練りあわせて、素朴な甘さに仕上げま
す。それを手づくりの皮で包んで、しっとりとし
た食感に焼き上げました。
メークインは時期によって甘さや固さが違つ
るので、分量や工程を調整するのが腕の見せどころ。
そのこだわりがたくさんの方に愛され、お
店で一番人気の一品となっています。
倉谷さんは「他にも光黒大豆を使ったロール
ケーキなど、工夫した和・洋菓子がたくさんあ
ります。厚沢部にお越しの際には、ぜひ立ち寄っ
てください」と話していました。

くらや製菓

住所：檜山郡厚沢部町本町 90-2 TEL：01396-4-3103
営業時間：8：00～19：30 定休日：日曜日

えすぼわーる新函館

第160号 平成27年12月10日発行
発行／新函館農業協同組合
住所／〒041-1201 北斗市本町1丁目1番21号
(北斗市総合分庁舎隣)
電話／0138-77-5555 (代表)
FAX／0138-77-5566
編集／企画室
印刷／有限会社 三和印刷



JA新はこだて facebook
JA新はこだてホームページからも
ご覧いただけます。
こちらも、よろしくお願いします。

まるめ郎アルバム



題名：マルメロード第35章
Day:2015. 11. 25

せたなの街並みを一望できる
立象山展望台に来ました。
屋根がうすく雪化粧しています。

2015年も年の瀬を迎えている今日この頃。今回の特集では「えすぼわーるで振りかえる2015年」と題して、今年の出来事を振りかえてみました。
2015年は、ふっくらんこの特Aはじめ嬉しいニュースがあった一方、TPP交渉が基本合意に達したり農協改革が決まった年でもあります。農業やJAにとって、将来に向け重要な年ではないかと思えます。皆さまにとっては、2015年はどのような年でしたか？これを機に振り返ってみてはどうでしょうか。(真)

編集後記

「えすぼわーる」とはフランス語で「希望」という意味。「えすぼわーる新函館が読者の皆さんに希望を届ける広報誌になって欲しい」という願いが込められています。